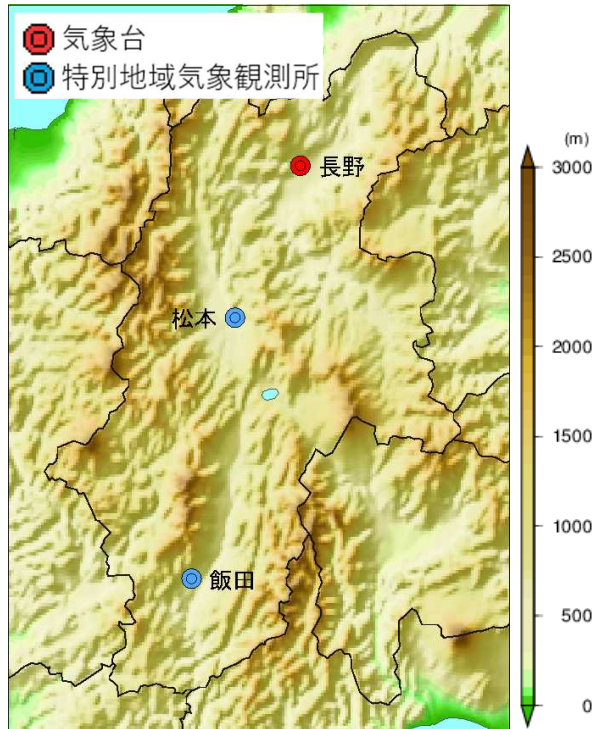


長野県



長野県の地勢

長野県は本州の中央部に位置する東西約 120km、南北約 210km、面積 13,562km²(全国第 4 位)の海とは面してない内陸の県である。

また、日本の屋根と呼ばれる 3,000m 級の高い山々に囲まれ、西側の県境には飛騨山脈(北アルプス)、その南東に木曾山脈(中央アルプス)と赤石山脈(南アルプス)が南北に平行して連なっている。東側の県境にはいずれも火山である本白根山(標高 2,171m)、浅間山(標高 2,568m)、八ヶ岳(標高 2,899m)がそびえ立っている。このように多くの標高の高い山々に囲まれているため、標高 1,000m 以上の山地が面積の 55%を占めている。

一方、河川は上記の山脈などを源とする 4 つの水系からなっている。県東部の甲武信ヶ岳に源を発する千曲川は、長野盆地で犀川と合流して新潟県で信濃川と名を変えて越後平野を縦断し、北アルプスの北部を源とする姫川も新潟県に流れ、それぞれ日本海に注いでいる。また、諏訪湖を源とする天竜川は伊那盆地を南へ流れ、木曾川は木曾谷をぬって濃尾平野へ流れ、それぞれ太平洋に注いでいる。

長野県の気候

長野県は内陸に位置していることから、年降水量が少なく、特に長野盆地から上田・佐久盆地にかけては、北海道東部の次に雨の少ない地域である。また、長野県は複雑な地形により気候特性も極めて多様であり、北部は日本海岸気候区の、南部は太平洋岸気候区の特徴を持っている。

特に、冬季の積雪の深さに気候の相違が顕著に現れる。北部県境付近での積雪は、豪雪地帯と形容するにふさわしい量になる一方で、中部や南部では盆地を中心に乾燥した晴天になる日が多く積雪も多くはない。

標高の高い地域では、山地自体の高さに伴う気温低下による山岳地帯特有の気候を作り出している。

また、県歌「信濃の国」で歌われる松本、伊那、佐久、善光寺の 4 つの平は、昼夜の気温較差が大きい盆地特有の気候が卓越している。この適度に気温差の大きいことが、水稻や果樹などの作物に好影響を与えている。

地形データには USGS (アメリカ地質調査所) の GTOPO30 を利用した。